

佐世保市宇久町平方言の記述的研究

門屋, 飛央

<https://doi.org/10.15017/4059956>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (文学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	門屋 飛央			
論文名	佐世保市宇久町平方言の記述的研究			
論文調査委員	主査	九州大学	准教授	青木 博史
	副査	九州大学	教授	高山 倫明
	副査	九州大学	教授	辛島 正雄
	副査	九州大学	教授	久保 智之

論文審査の結果の要旨

本論文は、長崎県五島列島最北端に位置する、佐世保市宇久町平方言の記述的研究である。「日本語」を「日本列島全体で話されている言語」と見て、中央語だけではなく各地の方言のあり方から日本語の全体像に迫る、という目的に基づいている。同時に、こうした包括的な方言記述は、方言が消滅しつつある地域の言語を保存することにもつながっている。

本論文は2部構成であり、第1部は当該方言を包括的に記述し文法体系を明らかにするもの、第2部はその中の特徴的な事象について詳しく論じるものである。まず、第1部の「音韻論」では、最初に音素目録を示し、CGV1V1Mという基本の音節構造を設定した(Gは半母音、Mはモーラ音素)。音韻規則として、連濁、半濁音化、狭母音の脱落、連母音の融合のほか、主題の//=wa//の同化、与格助詞/-ni/の/n/削除や代償延長について記した。これらの分析に基づき、共通語にはない音素/H/を設定した。次に、「形態論」では、最初に言語の単位を形態統語的自立性と音韻的自立性によって分類し、品詞の定義を行った。次いで、動詞や形容詞の活用を記述し、それぞれの統語的特徴についても述べた。さらに、動詞や形容詞に接続する屈折接尾辞や派生接尾辞を挙げ、その用法を記述した。その他の品詞、助詞・連体詞・接続詞・副詞についても用例を挙げながら記述し、いくつかの品詞にまたがって用いられる指示詞と疑問詞も同様に記述した。

引き続き、「格」では格助詞の一覧を示し、用例に基づいて記述を行った。「単文」では、ヴォイス、アスペクト、モダリティについて記述した。受動文では、動作主を示す「カラ」が広く用いられていること、アスペクトでは、/-wor-/が「進行」、/-tjor-/が「結果継続」で用いられていることなど、特徴的な点を指摘した。モダリティでは、「義務的モダリティ」と「対人的モダリティ」とに区別して記述し、終助詞「ネヨ」という特徴的な承接の形式について詳しく述べた。「複文」では、従属節を、補足節・名詞修飾節・副詞節・等位節に分類し、用例に基づき記述した。

第2部では、まず「ゴト(如)」という形式を取り上げ、連体形に接続する「様態」と仮想形に接続する「希望」とで、形態と意味の対応があることを示した。さらに、この場合の「希望」は明確な「希望」であって、曖昧に言うことのできない事態にも用いられることを述べた。次に、可能表現形式について、「ヤユル」が動作主体内部条件、「ラルル」が動作主体外部条件に基づく可能を表す形式であることを述べた。当該方言の記述を通して、可能文における使用の条件や意味の分類についても、あらためて考察を行った。

以上のように、本論文は、従来の伝統的な方言研究ではほとんど見られなかった、言語学的手法に則った包括的な記述研究であり、学術的重要性が大いに認められる。記述された個々の現象への

理論的アプローチなど、今後のさらなる発展も期待される。よって本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに十分な能力を持つ者であると認めるものである。